

平成25年度国際消防救助隊セミナー

参事官

平成26年2月26日(水)から2月28日(金)の3日間、滋賀県大津市において「平成25年度国際消防救助隊セミナー」(消防庁、全国市町村国際文化研修所共催)を開催しました。セミナーには、国際消防救助隊に登録している77消防本部から80名の国際消防救助隊員が参加しました。

初日(26日)は、外務省、消防大学校、独立行政法人国際協力機構から講師を招き、国際緊急援助体制や派遣の流れ、ニュージーランド南島地震災害の活動事例、2015年1月改正予定のINSARAGガイドラインの内容、フィリピン中部における台風被害への国際緊急援助隊医療チームの活動事例等についてご講義をいただきました。消防庁は、国際消防救助隊員の国際緊急援助隊における役割について説明するとともに、平成27年3月に実施される国際緊急援助隊救助チームのINSARAG再評価(JER)に向けてより実戦的な訓練の必要性を強調しました。

二日目(27日)は、京都市消防局の京都市消防活動総合センターにおいて、CSR(閉鎖空間における救助)をテーマに技術習得研修を実施しました。国際緊急援助隊救助チーム医療班から講師を招き、閉鎖空間における医療班と救助隊員の連携についてご講義をいただいた後、訓練場で講義内容を生かしながらプランニングに焦点をあてた実技を行いました。プランニングでは、一日目の講義を踏えた新マーキングシステムを採用し、1ブースに3班(1班6~7名)を割り当て、実施班、進行班(進行及び安全管理)、評価班(評価及び要救助者役等)の役割を輪番で交替して実施しました。各班とも医療班が準備した「バイタルサインの評価」や「サーチ活動」など行動を示したカードを活用し、医療班と頻りに意思疎通を重ねながら救助計画を組み立てる様子が垣間見えました。

また、振り返りでは評価班が時系列に活動状況をまとめたボードを使って効果的に行われていました。

最終日(28日)は、今年度に国際消防救助隊の連携訓練を実施した消防本部と派遣シミュレーション訓練を実施した消防本部から事例発表を行っていただきました。最後に、消防庁から来年度予定されている国際消防救助隊の教育訓練等について説明し、セミナーを終了しました。

本セミナーは、今回で13年目を迎えました。今後とも消防庁では、海外の被災地に派遣される国際緊急援助隊救助チームの中核である国際消防救助隊員として必要とされる知識や技術等を修得するための機会の提供に努め、その実力を十二分に発揮できる体制の強化を図ってまいります。また、各消防本部におきましては、本制度へのご理解、ご協力を引き続きよろしくお願いを申し上げます。

国際消防救助隊セミナー講師一覧

講義内容	講師
国際消防救助隊の現状と今後について	総務省消防庁 是澤優参事官
我が国の国際緊急援助体制と国際的連携	外務省 小林雅彦国際緊急援助官
ニュージーランド南島地震災害派遣活動事例	消防大学校 石原英朗講師
INSARAGガイドラインについて	JICA 勝部司講師
閉鎖空間における医療班と救助隊員の連携について	都立広尾病院 中島康講師
国際消防救助隊訓練の取組事例発表	新潟市消防局 野島忠講師、伊藤貴一講師
国際消防救助隊訓練の取組事例発表	神戸市消防局 村上圭講師
派遣シミュレーション訓練の取組事例発表	尼崎市消防局 平根真人講師
技術習得研修(CSR)	東京消防庁 山田寿講師、 大阪市消防局 榎得順一講師、 大津市消防局 谷光芳講師、 八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部 谷地剛典講師、 船橋市消防局 長谷憲弥講師 JDR救助チーム医療班： 打出啓二講師、井原則之講師、 大山太講師、鎌野倫加講師、 山崎範子講師、谷暢子講師

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部 参事官付 藤江
TEL: 03-5253-7507



開会のあいさつ（消防庁是澤優参事官）



講義



技術習得研修（講義）



技術習得研修（講義）



技術習得研修（CSR）



技術習得研修（振り返り）



連携訓練実施消防本部による取組事例発表



派遣シミュレーション実施消防本部による取組事例発表